

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる。

《校訓》 明るく 仲よく たくましく

2 学校の特徴

本校は知的障害や肢体不自由のある児童生徒を対象とし、一人一人の自立と社会参加を目指して教育を行う特別支援学校である。医療的ケアが必要な児童生徒には看護職員を配置し、通学して教育を受けることが困難な児童生徒には訪問して教育を実施できるようにしている。

(1) 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を基に、小学部、中学部、高等部が相互に連携し、一貫したきめ細かな教育活動の実践に努めている。

＜小学部＞ 日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付け、健康な心身を育み、主体的に活動に取り組めるようにする。

＜中学部＞ 生活に必要な基礎的な学力と運動能力の向上を図るとともに生活経験の拡大に努め、社会参加への意欲や態度を育てる。

＜高等部＞ 卒業後を見据え、生活する力や働く力を育てるために必要な知識・技能・体力を身に付け、社会参加へのさらなる意欲・態度を育てる。一人一人に応じた進路支援を行うとともに丁寧なアフターケアを行う。

(2) 地域の学校との交流及び共同学習や校外学習、地域奉仕活動等を実施し、社会性の育成を図っている。

(3) 砺波地区における特別支援教育の「地域のセンター校」として南砺市、小矢部市の幼保、小、中、高等学校等からの教育相談や支援の充実に努めている。

(4) 児童生徒、家族、地域のニーズに応じ、医療・福祉・労働等の関係機関と連携した支援を行っている。

3 学校の現状と課題

本校では、障害の多様化や重度重複化が進む中、生活経験の拡大や将来の自立と社会参加に向け、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズに応じた教育実践が求められており、それぞれの障害に対する教員の専門性のさらなる向上が必要であると考えている。保護者や家族、関係機関、地域の協力を得ながら「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の活用を進め、担当者間で連携を図りながら知的障害や肢体不自由それぞれの障害の特性に応じたきめ細かな教育活動の実践に日々努めている。

今年度も、新型コロナウイルス感染症に対応した保健管理体制及び感染防止体制を整え、登下校を含む日常の学校生活における安全の確保と健康管理を基本としながら、より豊かに主体的に卒業後の生活が送られるように、児童生徒や家族の教育的ニーズを適確に捉え、適切かつ丁寧に学習指導や生活指導、進路支援を行っていくことが大切であると考えている。また、肢体不自由対応のための施設設備の整備を進めるとともに、個々の障害や疾病に起因し突発的に発生する事態に備えて、適切かつ速やかな対応がとれるようにしていくことが必要である。

さらに、引き続き特別支援教育のセンター校として、地域の学校に対して、専門性を生かした支援や特別支援教育の有用性について理解啓発を図る役割も果たしていきたい。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領を踏まえた年間学習指導計画の作成を通して、小学部から中学部、高等部へと、自立と社会参加に向けて一貫した教育を推進する。 ○個々の障害の状態や特性を十分に把握し、キャリア教育の視点を踏まえ、多様な教育的ニーズに対応した適切な指導内容や方法を工夫する。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究を通して、教員の指導力の向上を図る。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">重点1</div> 計画	<p>〈小学部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての学習活動の基礎となる自立活動において、実態把握をし、具体的な指導内容を設定する際に、学習指導要領解説「自立活動編」に示された「流れ図」の作成をして授業実践に取り組んだり、教材教具を作成して活用したりする。 <p>〈中学部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>将来の社会生活を見据え、生徒自身が相手や場に応じた適切な挨拶や言葉遣いの必要性を考え、主体的に学習活動に取り組むことができるよう一人一人の実態に応じた目標を設定し、機会を捉えて教育活動全体で実践を行う。</u> <p>〈高等部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な探究の時間の指導内容表（令和3年度作成）を活用するとともに、よりよい授業を目指した情報交換を行い、生徒が自ら学び、考え、解決していく力を育てるための授業実践に取り組む。 <p>〈研修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、各教科における授業研究に取り組む。学習指導要領の各教科の目標・内容を踏まえて、授業の目標や学習内容、また、児童生徒の学びの姿を想定した学習活動や手立てについて検討し、授業研究を進める。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が安全・安心な学校生活を送るために、児童生徒の感染症予防の意識や予防スキルの向上を図る。また、感染や事故等を未然に防いだり、緊急時や災害時に迅速な対応をしたりすることができるよう、教職員の感染症や防災等に対する危機管理意識や対応力の向上を図り、保護者と情報を共有する。
		計画	<p>〈保健〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を継続するとともに、口腔ケアの意識と技術を高める取組を行う。口腔ケアは、う歯や歯周病の予防だけでなく、感染症や病気の予防にも効果的である。そこで、口腔ケアの重要性を教員や保護者に周知するとともに視覚的教材等を使って歯磨き指導を充実させ、口腔ケアの意識と技術の向上に努める。 <p>〈生徒指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の災害時の対応力を養うため、医療的ケア実施中の児童生徒の避難誘導の訓練を行う。 ○親子で防災に対する意識を高めることができるよう、保護者が参加できる防災教室を計画する。

3	進路支援	目標	<p>○保護者が早い段階から卒業後の生活や進路先について考えられるようにし、児童生徒の進路支援について保護者の理解と協力が得られるようにする。</p> <p>○進路支援の取組を効果的に進めるために、地域の障害福祉サービス事業所に関する情報を集約する。</p>
		計画 重点 2	<p>〈進路支援〉</p> <p>○保護者がより具体的なイメージをもって進路先について考えられるよう、地域の障害福祉サービス事業所に関する情報を収集し、卒業後に生徒が利用する可能性が高い砺波圏域にある障害福祉サービス事業所の一覧を作成する。</p>
4	特別活動	目標	<p>○望ましい集団活動を通して、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。</p> <p>○児童生徒会執行部を中心に児童生徒全体が主体的に取り組むことができる活動の推進を図る。</p>
		計画	<p>〈生徒指導〉</p> <p>○児童生徒会執行部が中心となり、児童生徒主体で取り組む「校内あいさつ運動」を計画的に実施する。</p>
5	その他	目標	<p>○特別支援教育コーディネーター等の資質向上を図りながら、地域及び校内支援の充実を図る。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」ができる授業実践につながるよう、ICT活用指導力の向上を図る。</p> <p>○コロナ禍でのPTA活動(親子活動)の在り方を検討し、PTA活動の活性化を図る。</p> <p>○学校評議員をはじめ保護者や地域関係者などに広く意見を求め、理解と協力を得て教育活動を推進する。</p>
		計画 重点 3	<p>〈教育相談〉</p> <p>○本校の児童生徒が学びやすい環境になるよう、校内支援の充実を図る。<u>ケース会議やサポート会議等で支援の提案や情報整理をする。また、日頃の授業や学級運営などで役立つ具体的な支援を提供したり、校内の児童生徒に関する相談への解決策を提案したりする。</u></p> <p>〈情報図書〉</p> <p>○教育用クラウドサービスの有用な活用や1人1台タブレット端末(iPad)をはじめとするICT機器の活用指導力の向上を目指し、教育用クラウドサービスに係る研修やICT機器の使い方等の講習会、教員のニーズに応じた有用な情報を発信する。</p> <p>〈総務〉</p> <p>○児童生徒、保護者の教育的ニーズに応えられるよう、PTA役員と学校が連携を密にし、各委員会主催の行事の企画・運営を通じて、PTA活動の活性化を図る。</p>

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	適切な挨拶や言葉遣いの指導		
現 状	<p>中学部では令和3年度から適切な挨拶についての指導に取り組み、朝の挨拶について年間を通じて指導を行った結果、多くの生徒からは「友達や先生に進んで挨拶できるようになった」、教員からは「挨拶の場面だけでなく日常生活の対人面においても良い影響がたくさん見られた」などの感想が聞かれた。これを受けて、今年度も、継続して挨拶の指導を行うとともに、丁寧な言葉遣いの指導を加え、挨拶習慣の定着とともに、中学生として他者との望ましい関わり方を身に付けるきっかけをつくり、社会参加への意欲や態度を育てていきたい。</p>		
達成目標	適切な挨拶や言葉遣いを身に付けるための指導の実践 年間4回以上		
方 策		1 年生	
		2、3 年生	
	6 月	・挨拶や言葉遣いについての事前アンケートの実施	
	1 学期	・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導	・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導と個に応じた目標の設定
	2 学期	・個に応じた目標の設定と日常生活での実践とチェック	・日常生活での実践とチェック ・実践の振り返りと目標の見直し（適宜）
	1 2 月 上旬	・挨拶や言葉遣いについての事後アンケートの実施	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路支援の取組を進めるための障害福祉サービスに関する情報提供の工夫	
現 状	<p>進路支援部では、令和3年度に『障害福祉サービス事業所一覧』を作成し、生徒や保護者がより具体的に進路先の情報を得られるように地域の障害福祉サービス事業所（就労継続支援A型事業所・就労移行支援事業所）の情報提供を行った。今年度は、その内容を拡充し、事業所の所在地が一目で分かる「障害福祉サービス事業所マップ」と、「就労継続支援B型事業所の紹介ページ（基本情報・生徒や保護者が知りたい情報・事業所からのメッセージを記載）」を追加したい。今後、一人一人の進路希望・居住地等に合わせた情報を、生徒や保護者に分かりやすく伝えるため、『障害福祉サービス事業所一覧』のよりよい活用方法を考えていく。</p>	
達成目標	就労継続支援B型事業所の情報収集及びその紹介ページの作成	障害福祉サービス事業所一覧の効果的な活用例や改善点等収集のためのアンケートの実施
	砺波圏域の就労継続支援B型事業所10箇所以上の掲載	年間3回以上
方 策	<p><4月～7月中旬> ・砺波圏域にある就労継続支援B型事業所の情報収集と紹介ページを作成する。 ・有効活用につなげるための聞き取り項目や情報収集の方法について話し合う。 <7月下旬～1月上旬> ・前期進路懇談会（7月）、前期保護者懇談会（10月）、後期進路懇談会（12月）の各懇談会後にアンケートを実施し、集計結果を分析、効果的活用方法や改善点について話し合う。 <1月中旬～3月> ・進路報告会において、『障害福祉サービス事業所一覧』の効果的な活用方法を紹介する。 ・次年度に向けて、『障害福祉サービス事業所一覧』の改善点を明確にし、見直しを行う。</p>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和4年度 学校アクションプラン - 3 -

重点項目	その他
重点課題	校内支援の充実
現 状	<p>令和3年度は、地域及び校内支援の充実を図るために、校内で特別支援教育に関する研修会を行い、特別支援教育コーディネーターや教育相談部員を中心に、教育相談や校内支援に必要な知識や情報を全教員で共有してきた。</p> <p>今年度は、引き続き、校内へ特別支援教育に関する知識や情報を提供していく。さらに、特別支援教育コーディネーターや教育相談部員が、学部（学年）主任と連携を図り、校内の児童生徒に関する困り事や授業の改善などへの解決策を提案し、校内支援の充実に努めたい。各学部のケース会議や校内支援委員会、サポート会議等での支援の提案や情報整理を行うことに加え、日頃の授業や学級運営などで役立つ具体的な支援を提供していきたい。</p> <p>校内支援を充実させることで、教員の支援力や校内全体の支援力が向上し、地域支援の充実にもつながると考える。</p>
達成目標	<p>校内の児童生徒に関する相談の対応や職員への支援に関する情報提供の実施</p> <p>年間3ケース以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態の捉え方や学習の支援について、新任者や初任者等に情報を提供する。研修会後には、新任者や若手教員などに声を掛け、研修内容や日頃の支援などについて話を聞く。 ・校内の教員に教育相談部の文献や教材の紹介、授業での支援・指導法の提案、関係機関の情報提供等を行う。 ・特別支援教育コーディネーターや教育相談部員は身近な職員に声を掛け、情報を収集するよう努める。また、常に学部（学年）主任と連携を図り、児童生徒の様子や学びに関する情報を学部（学年）主任から得ながら必要に応じて声を掛けるなど、気軽に相談できる環境づくりを行う。 ・特別支援教育コーディネーターが校内支援委員会やサポート会議を企画し、支援の提案や情報整理をしたり、各学年のケース会議に参加して情報収集や支援の提案をしたりする。 ・コーディネーター会や分掌部会で報告し情報を共有する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)